

2014年度 最終報告書

2015年3月31日
安心ネットづくり促進協議会
調査研究委員会
ILAS検討作業部会

内 容

はじめに	-3-
1. 昨年度の結果の振り返り	-4-
2. 本年度の活動方針と作業部会体制	-5-
2-1. 調査対象	
2-2. テスト問題	
2-3. テスト形式	
2-4. 作業部会体制	
2-5. 実施協力者の一覧	
3. 調査結果総論.....	7-
3-1. 対象別×設問別の分析	
3-2. 対象別×属性別の分析	
3-3. 対象別×利用状況別の分析	
3-4. 対象別×啓発経験別の分析	
4. 安心協 I L A S の活動総括	-17-
4-1. 啓発活動への連携	
4-2. 来期に向けた課題	
5. 来期の活動計画	-18-

はじめに

今回 2 年目となる「安心協 I L A S」の調査と検証は、引き続き総務省 I L A S を援用する形で、民間の自主的努力で青少年のインターネット環境整備に取り組む安心協が、活動の一環として主に保護者と青少年を対象にインターネット・リテラシーを可視化しようとする試みである。

研修会の機会等を活用して比較的短時間で誰でも協力可能なテストとするために、平易な表現で最新かつ具体的な設問内容に努め、またリテラシーレベルを図るため、開発に様々な工夫をこらしているが、インターネットを使いこなすための能力を図る指標としては常に更新を求められることとなる。しかしながら前年度からの基本方針は変更せず、総務省の 7 つのリスク分類に基づいてインターネット・リテラシーを測る基礎的な事項をベースに、最新の事象も一定程度反映させたテスト内容に作り込み、多くの関係者の協力を得て今年度の調査を完了した。

今回分析、検証した結果は単なる分析にとどまらず、青少年や保護者のインターネット・リテラシー向上に取り組む当協議会及び会員企業・団体等の各地での普及啓発活動や、安心安全サービスの提供・改善につなげていくことを目指している。

1. 昨年度の結果の振り返り

ILAS 検討作業部会の立ち上げを行い、総務省が ILAS の取り組みにより定義をした 7 項目のリテラシー分類をもとにして、小学生から大人まで短時間で実施ができるテスト及び解説集を開発。また全国の小・中・高校生男女 1,434 名、及び保護者 2,027 名、合計 3,461 名を対象としたインターネット・リテラシー実態調査を行った。

1-1. 青少年と保護者のインターネット・リテラシーの比較

図表 1-1 より保護者のリテラシーテスト正答率は、20 歳代は 95.5%、30 歳代は 91.9%、40 歳代は 91.5%、50 歳代は 90.8%、60 歳以上は 89.1%、図表 1-2 より青少年は小学生は 75.4%、中学生は 77.3%、高校生は 83.1%、と青少年よりも保護者全般のほうがリテラシーが高く、青少年は年齢が増すにつれてリテラシーが高くなり、保護者は年代を増すごとに正答率が下がる結果となった。

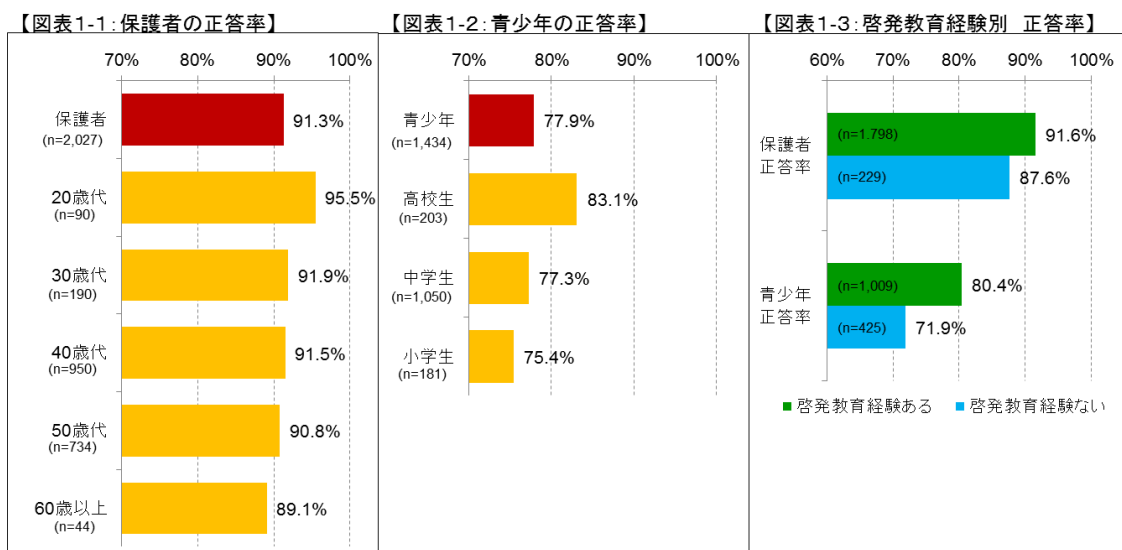
1-2. 啓発教育の経験者と非経験者のリテラシー習得状況

啓発教育経験では、青少年の 70.3%、保護者の 88.7%が学校や研修会で「ネットモラルを学んだ経験がある」と回答。図表 1-3 より正答率では、「学んだ経験がある青少年」の正答率は 80.4%、「学んだ経験がない青少年」は 71.9%、「学んだ経験がある保護者」は 91.6%、「学んだ経験がない保護者」は 87.6%と、青少年、保護者ともネットモラルを学んだ経験がある人のほうがリテラシーが高い結果となった。

1-3. 啓発活動への連携

インターネット利用において、青少年は知識や心得の習得よりも利用が先行していると考えられ、「利用の習熟」が必ずしも「リテラシーが高い」とは限らないと考えられる。一方、保護者は知識や心得を有しているものの、実際の利用と理解が不足していると考えられる。

いずれの結果からも、世代に関わらず生活において必要不可欠であるインターネットの基本的な理解が求められることから、当協議会をはじめとする産学関係者の役割として、青少年の育成に影響を持つ保護者等に対して重点的に、最新の知識やリスク啓発のみならず「インターネットの実際の利用を通して理解することの勧め」を行うことが保護者及び青少年のインターネット・リテラシーを高める有効なアプローチの一つであると考えられる。



2. 本年度の活動方針と作業部会体制

上記結果を受けて、2014年5月19日の2014年度第1回作業部会において、安心協として取り組む意義や目的の検討を中心に参画メンバーと議論を行い、主に以下3点の確認を行った。

2-1. 調査対象

総務省 I L A S は高校生をインターネット・リテラシーの指標対象として調査するのに対し、安心協 I L A S では昨年度に引き続き、啓発活動への連携を目的として、小学生から保護者までを幅広く対象とする。また保護者のアンケートにおいては、小学生を持つ保護者、中学生を持つ保護者、高校生を持つ保護者が分かるように行い、実施においてもバランスを鑑みて行うこととする。

※インターネットを安心安全に活用するためのリテラシー分類（大分類3・中分類7）

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力	
1-a	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる
1-b	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる
2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力	
2-a	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる
2-b	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる
2-c	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力	
3-a	プライバシー保護を図り利用できる
3-b	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる

2-2. テスト問題

昨年度同様、総務省が I L A S の取り組みにより定義をした7項目のリテラシー分類を元に、事象は最新のものに修正してテスト問題を作成。問題の種類は【保護者・中高生用】を基本として、読解力に依存しない調査とするため【小学生用】を別に作成。全2パターンで各21問とする。そのため、保護者・高校生・中学生は同様のテスト問題で実施するため、結果の比較分析が可能であるが、小学生は別のテスト問題で実施をするため、比較分析は行うことはせず、小学生の中での傾向分析に留めることとする。

2-3. テスト形式

2013年度の「○×2択式」から「3択式」に変更を行い、より精緻な調査分析を目指す。また昨年度同様、「言葉の意味が分からない=△」を選択肢に加え、問題の理解度を正誤とは別の観点で分析を行うこととする。

2-4. 作業部会体制

昨年度に引き続き、主査副主査は以下の体制で作業部会の運営を行った。

- 主査 藤川 大祐 氏 (千葉大学教授)
 副主査 金井 修 氏 (全国高等学校 PTA 連合会 副会長)
 副主査 齋藤 長行 氏 (株式会社 KDDI 研究所 研究主査)
 副主査 竹内 和雄 氏 (兵庫県立大学 准教授)
 参画メンバー 合計 20 名

2-5. 実施協力者の一覧

no	都道府県	実施	対象	協力人数
1	北海道	北海道高等学校 PTA 連合会	保護者	84
2	佐賀県	佐賀県高等学校 PTA 連合会	保護者	142
3	東京都	東京都公立高等学校 PTA 連合会	保護者	107
4	愛知県	愛知県公立高等学校 PTA 連合会	保護者	66
5	福島県	福島県高等学校 PTA 連合会	保護者	214
6	大阪府	大阪府 PTA 協議会	保護者	16
7	熊本県	熊本県 PTA 連合会	保護者	99
8	茨城県	茨城県 PTA 連絡協議会	保護者	9
9	鳥取県	鳥取県 PTA 協議会	保護者	152
10	秋田県	秋田市 PTA 連合会	保護者	281
11	福岡県	福岡市立賀茂小学校 PTA	保護者	36
12	東京都	世田谷区立弦巻中学校	保護者	80
13	大阪府	羽衣学園高等学校	高校生	159
14	神奈川県	河合塾 横浜校	高校生	235
15	新潟県	新潟県立加茂高校	高校生	365
16	大阪府	羽衣学園中学校	中学生	43
17	茨城県	水戸市立第四中学校	中学生	287
18	神奈川県	相模原市立大野北中学校	中学生	201
19	千葉県	流山市立八木中学校	中学生	264
20	千葉県	我孫子市立湖北台東小学校	小学生	44
21	千葉県	習志野市立実花小学校	小学生	72
22	三重県	名張市立梅が丘小学校	小学生	142
	15 都道府県	全 22 箇所 保護者 12 箇所 青少年 10 箇所 (高校 3 校/中学校 4 校/小学校 3 校)	保護者教員 1,286 人 高校生 759 人 中学生 795 人 小学生 258 人	3,098 人

3. 調査結果総論

3-1. 対象別×設問別の分析

図表3-1-1と図3-1-2より、保護者の正答数の中央値は20・最頻値は21、高校生の中央値は19・最頻値は17、中学生の中央値は18・最頻値は20、小学生の中央値は17・最頻値は20という結果から、昨年度の調査に引き続き、正答数の分布図は高得点層に偏った結果となった。

図表3-1-4では、7項目のリテラシー分類別の正答率を示しており、全体的に「1a 違法情報への対応」の正答率が低く、中学生では「1b 有害情報への対応」と「3b 適切なセキュリティ対策」が低い。

また図表3-1-4より、全対象に共通して「no11. 出会い系サイト規制法の理解」と「no19. セキュリティソフトの知識」の正答率が低い傾向。また「no9. 歌詞の著作権」と「no14. 環境整備法」に関しては、保護者の正答率が高かったのに対して、高校生・中学生では低い結果となった。

※前述の通り、保護者・高校生・中学生は同様のテスト問題で実施したため、結果の比較分析が可能であるが、小学生は別のテスト問題であるため、比較分析は行うことはせず、小学生の中での傾向分析に留めることとする。

図表3-1-5では、設問ごとの不認識率（各設問の全回答の中で、「言葉の意味がわからない」を選択した割合）を示しているが、「no19. セキュリティソフトの知識」に関しては、全対象に共通して低い傾向。中高生では「no14. 環境整備法」と「no21. ウィルス対策」、小学生では、「no3. 著作権侵害」「no9. 歌詞の著作権」「no15. 掲示板への対応」の不認識率が高い。特に小学生では「法律違反（著作権）」などの語句に対して馴染みが薄いと思われる。

図表3-1-6では、平均点以上のグループと平均点以下のグループの間で、設問ごとの正答率の差分を示しているが、保護者は「no10. ゲーム課金」と「no19. セキュリティソフトの知識」における差分が大きく、実際に利用をしている人とそうでない人とで差異が生じていると思われる。また青少年では、「著作権」や「環境整備法」などの設問の正答率に差分があることから、常識では答えることが出来ない専門的な用語に関する設問の正答率が低い傾向にあると思われる。

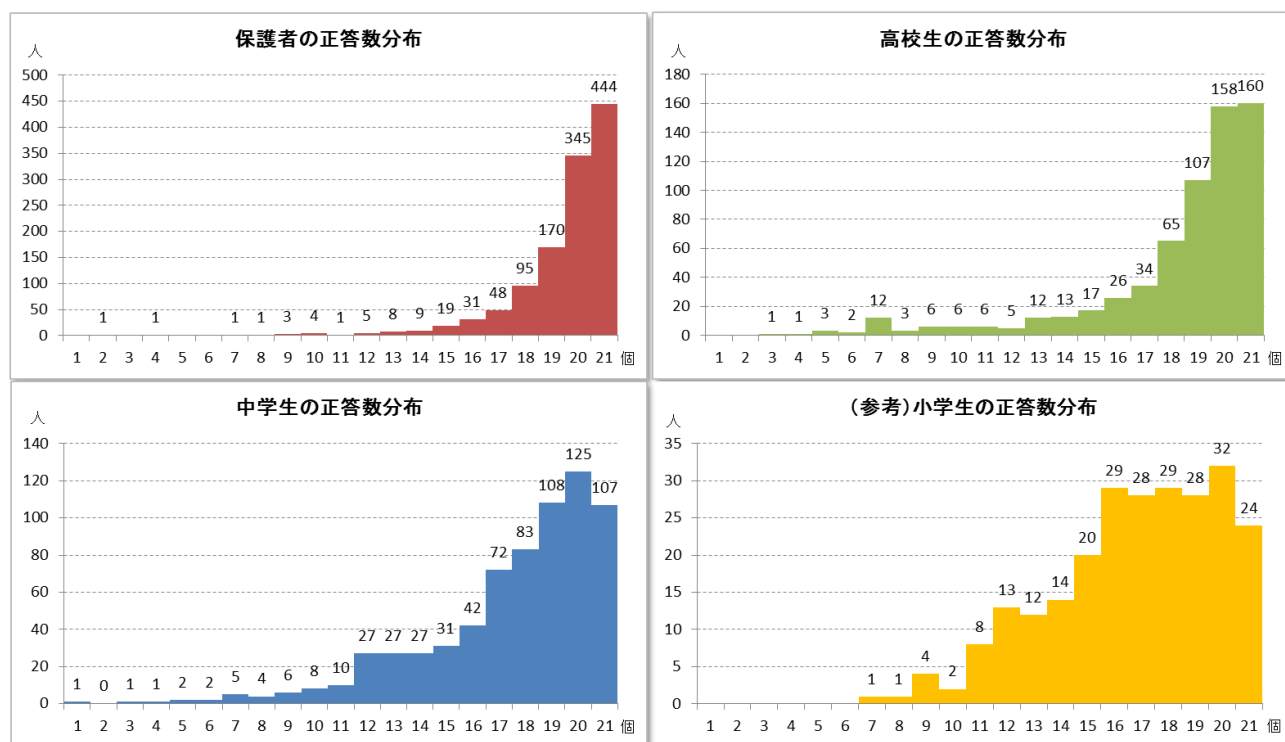
図表3-1-1. 基本統計量

	■保護者	■高校生	■中学生	■小学生	
正答率	93.1%	87.1%	83.3%	79.8%	
平均（全21問）	19.5	18.3	17.5	16.8	
中央値（メジアン）	20	19	18	17	
最頻値（モード）	21	21	20	20	
標準偏差	2.03	3.50	3.37	3.12	
被験者数	1,286	759	795	258	
有効数（分析対象数）	1,128	639	686	245	

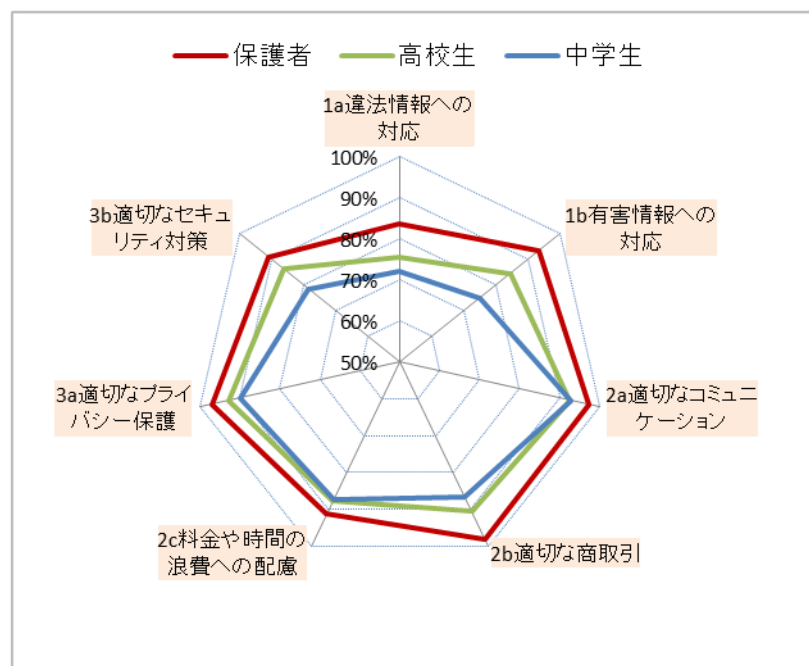
※無効条件を「解答欄空白が1個以上」もしくは「”意味が分からない”の選択を11個以上」等、回答に不備があるものを除外して分析を行った。

※保護者・高校生・中学生は同様のテスト問題（3択式）で実施したため、結果の比較分析が可能であるが、小学生は別のテスト問題（〇×式）であるため、比較対象分析はせず、参考データとする。

図表 3-1-2. 保護者と青少年の正答数分布図



図表 3-1-3. 7項目のリテラシー分類別の正答率



図表 3-1-4. 保護者と青少年の設問ごとの正答率（詳細表）

設問	リスク分類	設問の趣旨	正答率 (%)			参考 ¹
			保護者	高校生	中学生	小学生
1	2c 料金時間への配慮	ゲームの利用時間に対する配慮	95	87	88	97
2	1b 有害コンテンツ理解	フィルタリング設定の必要性	97	91	86	89
3	1a 違法コンテンツ理解	違法ダウンロード：著作権侵害	89	89	83	78
4	2a 適切なコミュニケーション	ネットいじめに対する理解	98	93	93	82
5	3a プライバシー保護	アプリに対する理解	98	95	92	93
6	3a プライバシー保護	撮影と掲載許可	99	95	97	80
7	3b 適切なセキュリティ対策	歩きスマホに関する理解	94	82	82	79
8	1b 有害コンテンツ理解	ID 交換掲示板に対する理解	93	85	82	85
9	1a 違法コンテンツ理解	歌詞の著作権に対する理解	85	62	74	54
10	2c 料金時間への配慮	ゲーム課金の対応と知識	80	82	79	85
11	1a 違法コンテンツ理解	出会い系サイト規制法の理解	75	76	60	72
12	2c 料金時間への配慮	ネット依存に対する理解	98	94	96	80
13	2a 適切なコミュニケーション	揉め事があった際の対応	95	91	92	93
14	1b 有害コンテンツ理解	環境整備法に対する理解	91	77	59	76
15	3a プライバシー保護	掲示板への対応	94	88	82	36
16	2b 電子商取引の理解	不正請求への対応	97	93	88	98
17	2a 適切なコミュニケーション	不適切投稿リスクの理解	99	93	95	87
18	2b 電子商取引の理解	クレカの使用者範囲の理解	98	85	78	81
19	3b 適切なセキュリティ対策	セキュリティソフトの知識	82	86	70	74
20	2b 電子商取引の理解	怪しげな儲け話への対応	99	93	95	87
21	3b 適切なセキュリティ対策	ウイルス感染に対する理解	97	91	85	70

※正答率の赤字は、正答率 80%以下（特に低いもの）を示している

※設問部分の網掛けは、共通して正答率が低い設問を示している

¹ 保護者・高校生・中学生は同様のテスト問題（3択式）で実施したため、結果の比較分析が可能であるが、小学生は別のテスト問題（〇×式）であるため、保護者・高校生・中学生との比較対象分析はせず、参考データとする。

図表 3-1-5. 保護者と青少年の設問ごとの認識不足率² (詳細表)

設問	リスク分類	設問の趣旨	認識不足率 (%)			参考
			保護者	高校生	中学生	小学生
1	2c 料金時間への配慮	ゲームの利用時間に対する配慮	4	3	6	1
2	1b 有害コンテンツ理解	フィルタリング設定の必要性	2	2	7	4
3	1a 違法コンテンツ理解	違法ダウンロード：著作権侵害	1	1	7	17
4	2a 適切なコミュニケーション	ネットいじめに対する理解	0	3	1	6
5	3a プライバシー保護	アプリに対する理解	1	1	5	2
6	3a プライバシー保護	撮影と掲載許可	0	0	1	4
7	3b 適切なセキュリティ対策	歩きスマホに関する理解	0	3	2	13
8	1b 有害コンテンツ理解	ID 交換掲示板に対する理解	3	4	9	8
9	1a 違法コンテンツ理解	歌詞の著作権に対する理解	2	5	8	16
10	2c 料金時間への配慮	ゲーム課金の対応と知識	10	1	8	2
11	1a 違法コンテンツ理解	出会い系サイト規制法の理解	4	1	8	16
12	2c 料金時間への配慮	ネット依存に対する理解	0	5	2	11
13	2a 適切なコミュニケーション	揉め事があった際の対応	2	6	4	1
14	1b 有害コンテンツ理解	環境整備法に対する理解	3	3	17	18
15	3a プライバシー保護	掲示板への対応	1	1	4	15
16	2b 電子商取引の理解	不正請求への対応	0	2	3	1
17	2a 適切なコミュニケーション	不適切投稿リスクの理解	1	4	2	7
18	2b 電子商取引の理解	クレカの使用者範囲の理解	0	5	10	7
19	3b 適切なセキュリティ対策	セキュリティソフトの知識	8	3	18	16
20	2b 電子商取引の理解	怪しげな儲け話への対応	1	4	3	9
21	3b 適切なセキュリティ対策	ウイルス感染に対する理解	2	11	12	18

※認識不足率の青字は、特に低いものを示している

※設問部分の網掛けは、共通して認識不足率が低い設問を示している

² 各設問の全回答の中で、「言葉の意味がわからない」を選択した割合

図表 3-1-6. 設問別×平均点以上群と以下群³との正答率差分（詳細表）

設問	リスク分類	設問の趣旨	正答率差分 (%)			参考
			保護者	高校生	中学生	小学生
1	2c 料金時間への配慮	ゲームの利用時間に対する配慮	13	28	23	6
2	1b 有害コンテンツ理解	フィルタリング設定の必要性	10	24	29	20
3	1a 違法コンテンツ理解	違法ダウンロード：著作権侵害	22	26	32	29
4	2a 適切なコミュニケーション	ネットいじめに対する理解	3	13	11	22
5	3a プライバシー保護	アプリに対する理解	6	13	19	12
6	3a プライバシー保護	撮影と掲載許可	3	12	7	24
7	3b 適切なセキュリティ対策	歩きスマホに関する理解	14	35	23	32
8	1b 有害コンテンツ理解	ID 交換掲示板に対する理解	16	29	34	18
9	1a 違法コンテンツ理解	歌詞の著作権に対する理解	26	50	34	40
10	2c 料金時間への配慮	ゲーム課金の対応と知識	44	38	38	19
11	1a 違法コンテンツ理解	出会い系サイト規制法の理解	37	29	37	39
12	2c 料金時間への配慮	ネット依存に対する理解	4	16	10	31
13	2a 適切なコミュニケーション	揉め事があった際の対応	13	21	18	15
14	1b 有害コンテンツ理解	環境整備法に対する理解	20	40	45	25
15	3a プライバシー保護	掲示板への対応	12	26	29	29
16	2b 電子商取引の理解	不正請求への対応	8	18	18	0
17	2a 適切なコミュニケーション	不適切投稿リスクの理解	4	21	14	24
18	2b 電子商取引の理解	クレカの使用者範囲の理解	5	34	40	26
19	3b 適切なセキュリティ対策	セキュリティソフトの知識	39	31	41	43
20	2b 電子商取引の理解	怪しげな儲け話への対応	3	20	12	17
21	3b 適切なセキュリティ対策	ウイルス感染に対する理解	10	24	35	50

※正答率差分の赤字は、差分が 30%以上（特に開きが大きいもの）を示している

小学生：以上 1 4 1 名／以下 1 0 4 名

中学生：以上 4 2 3 名／以下 2 6 6 名

高校生：以上 4 2 5 名／以下 2 1 4 名

保護者：以上 6 7 1 名／以下 3 5 6 名

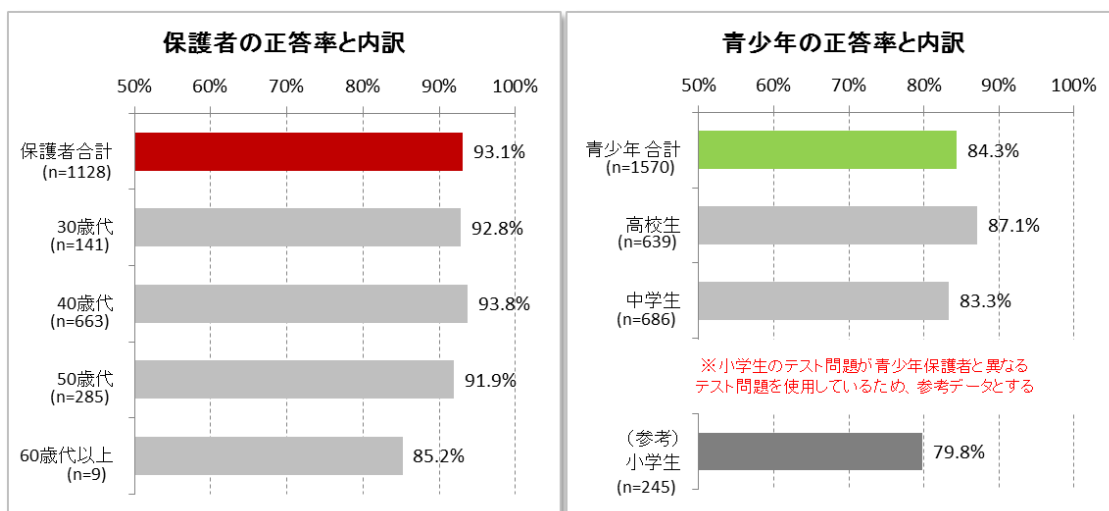
³ 平均点以上のグループと平均点以下のグループとの正答率の差分

3-2. 対象別×属性別の分析

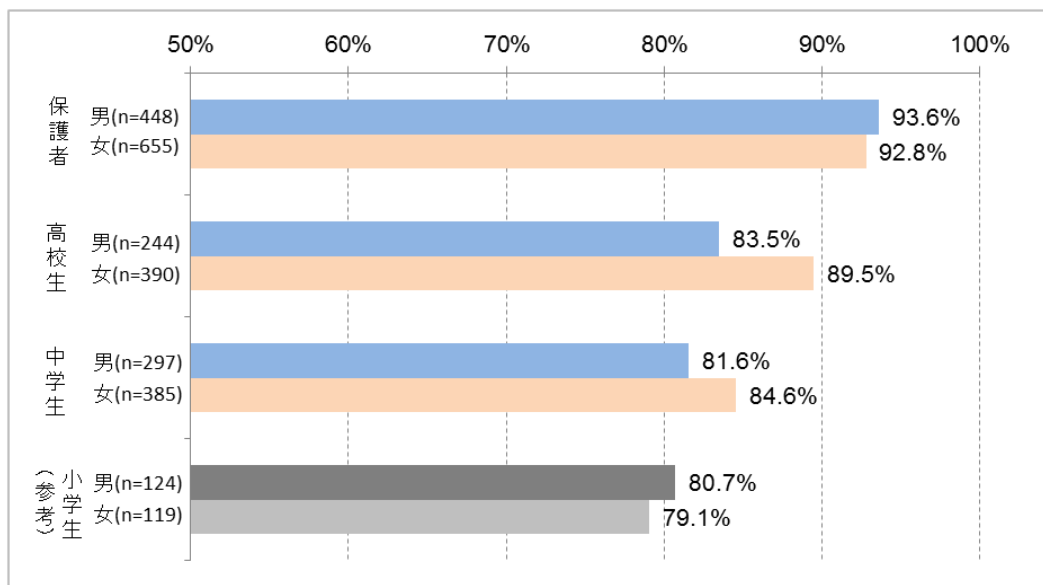
図表 3-2-1 より、保護者の正答率は年齢ごとではほぼ変わらず、中高校生では学齢が低くなると正答率が低くなる結果となった。

図表 3-2-2 では、性別ごとの正答率を示しているが、保護者は男性のほうが高く、中高生は女性のほうがリテラシーが高い結果となった。

図表 3-2-1. 保護者と青少年の正答率と内訳



図表 3-2-2. 性別ごとの正答率



3-3. 対象別×利用状況別の分析

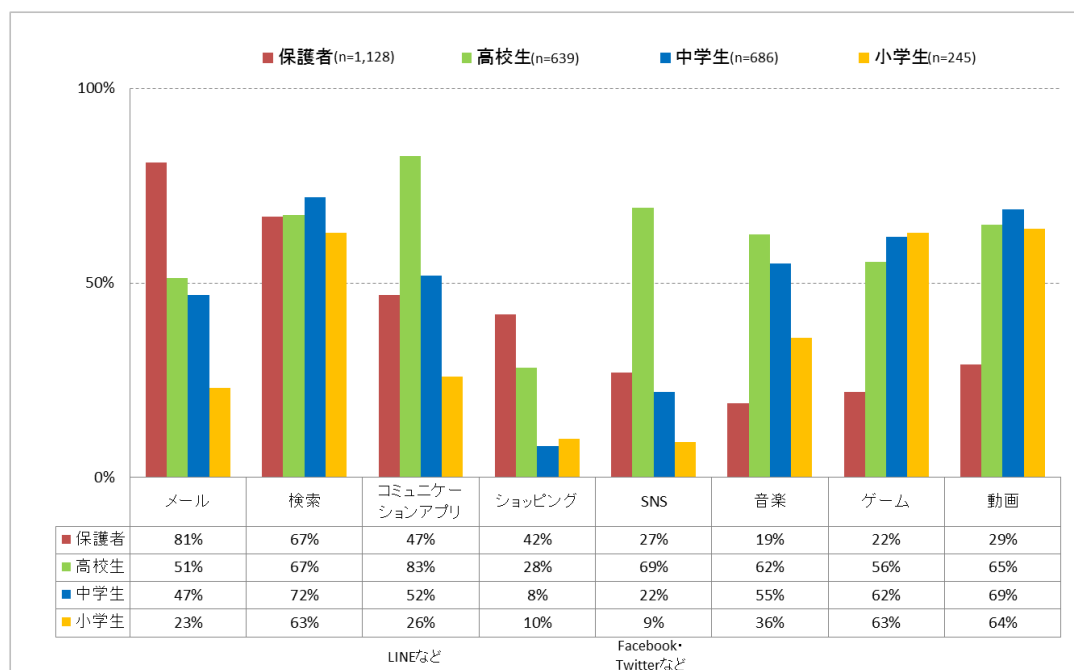
図表3-3-1では、保護者と青少年におけるインターネットの利用内容を示しており、保護者はメール(81%)、高校生はコミュニケーションアプリ(83%)・SNS(69%)・動画(65%)、中学生は動画(69%)・ゲーム(62%)・音楽(55%)、小学生は動画(64%)・ゲーム(63%)が上位と、対象毎に利用内容が異なる結果となった。

図表3-3-2では、青少年におけるインターネットの利用期間を示しており、高校生では「3年以上6年未満」、中学生では「1年以上3年未満」が最も多い。

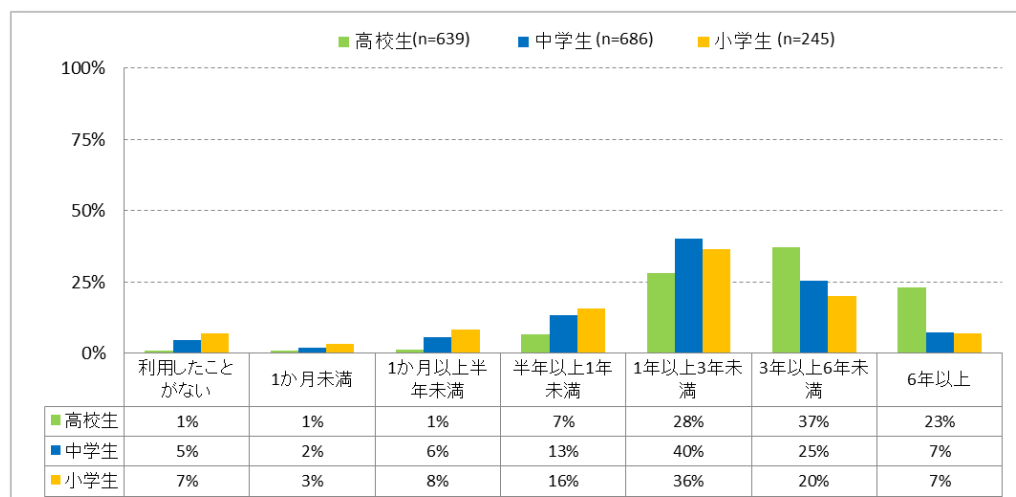
図表3-3-3では、インターネットの1日の利用時間を示しており、高校生では、約45%が1日2時間以上利用しており、保護者の利用は他の対象と比べて少ないと言える。

また図表3-3-4と図表3-3-5において、「利用時間と正答率」、並びに「利用期間と正答率」に関して、分散分析を行った。その結果、それぞれ有意な差があることを示している。これは、インターネット利用の初期段階(利用なし～利用半年間)では、リテラシーが低い傾向にあり、トラブルが起きやすいことが想定され、また利用時間に関しては、全く利用しないのではなく、ある程度利用経験はあるものの、利用し過ぎず、適度に利用をコントロールできている青少年がリテラシーが高いことを示しており、今後の啓発活動の指針となりうるデータと言える。

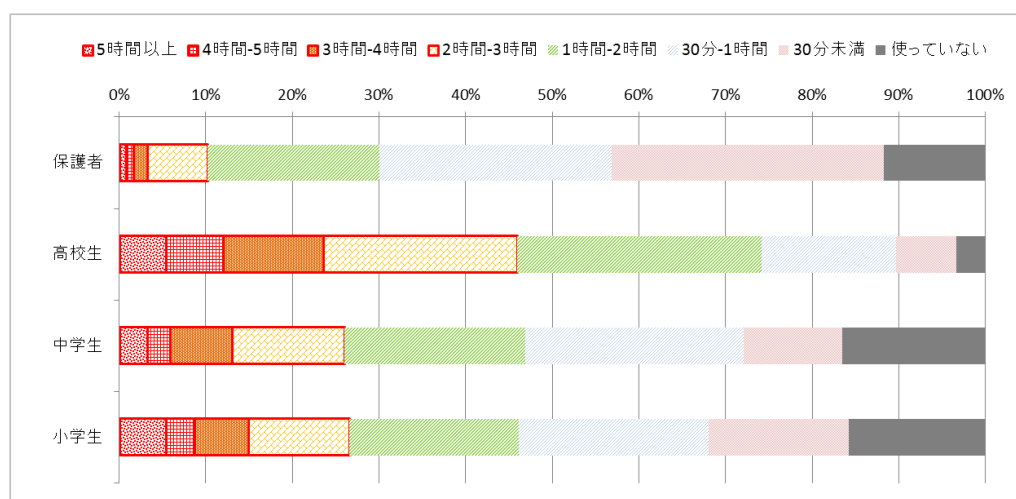
図表3-3-1. 保護者と青少年におけるインターネットの利用内容(複数回答)



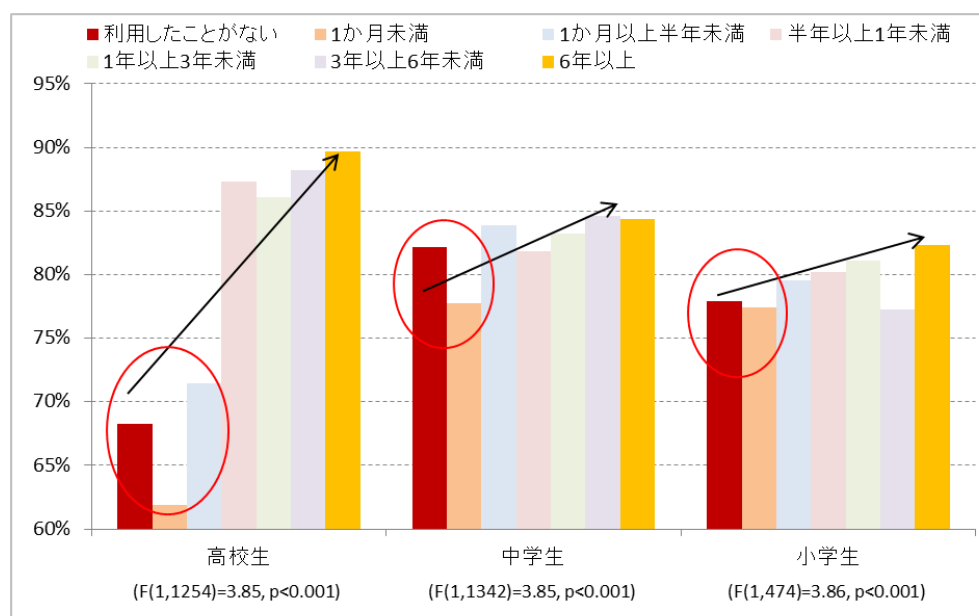
図表 3-3-2. 青少年におけるネットの利用期間



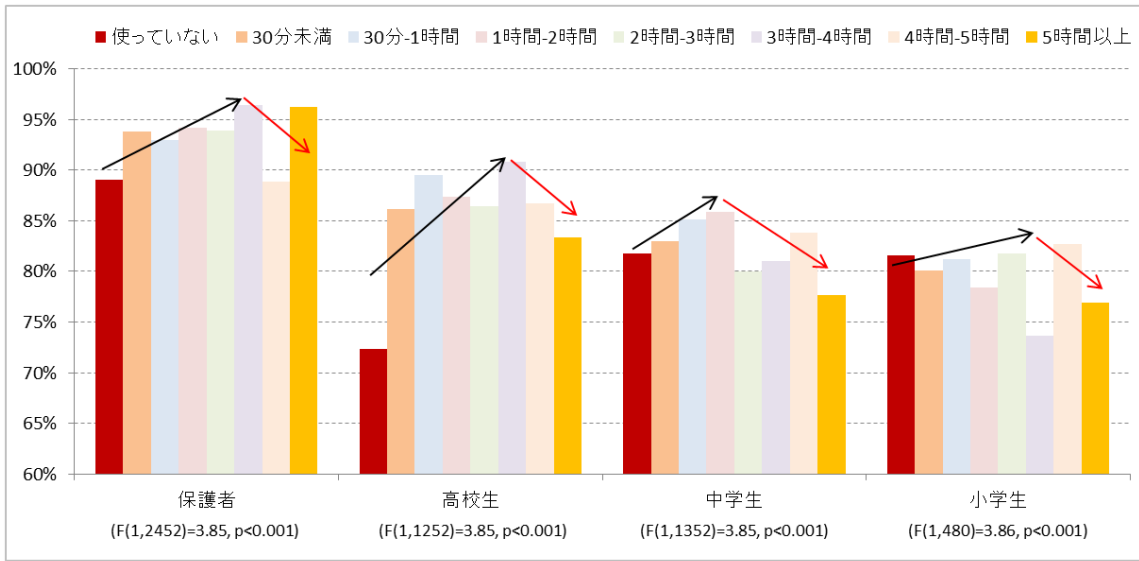
図表 3-3-3. 保護者と青少年におけるインターネットの1日の利用時間



図表 3-3-4. ネットの利用期間と正答率



図表 3-3-5. ネットの1日の利用時間と正答率

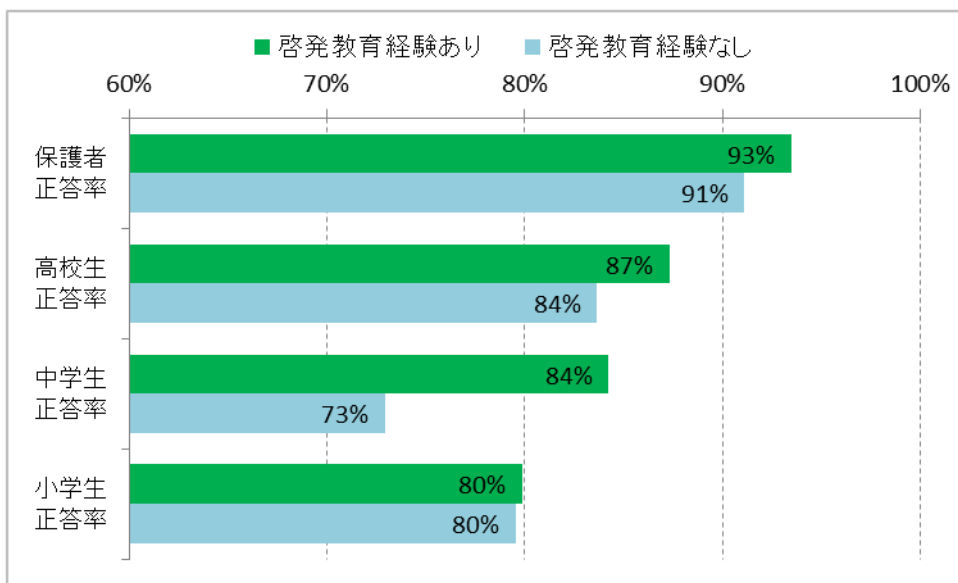


3-4. 対象別×啓発経験別の分析

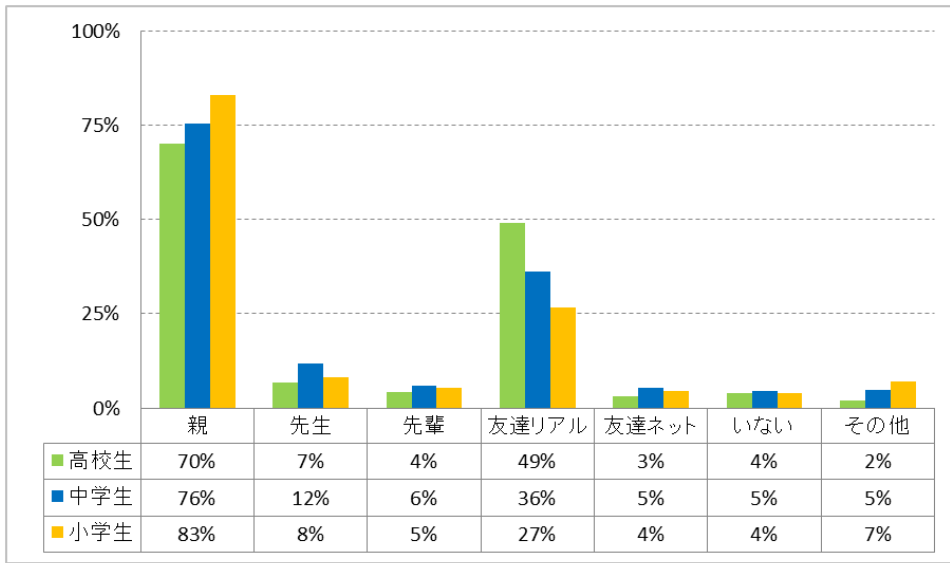
図表 3-4-1 では、学校の授業や研修会、販売店等でネットモラルを学んだ経験のある人とない人の正答率を示しており、昨年度の調査と同様、どの対象においても、何かしらの啓発経験がある人のリテラシーが高い傾向が見られる。また特に中学生においては、啓発経験によってリテラシーの差が大きい傾向があるため、今後この中学生への啓発教育の重点化を検討することが考えられる。

図表 3-4-2 では、青少年がインターネット利用に関して困ったときに相談する相手（複数回答）を示しており、親の割合が最も多く、年齢が上がるにつれて、友達（リアル）の比率が高くなる傾向が見られる。

図表 3-4-1. 対象毎の啓発経験別の正答率



図表 3-4-2. 青少年の相談相手（複数回答）



4. 安心協ILASの活動総括

本活動は昨年度7月の作業部会立ち上げ以降、協議会関係者の「青少年インターネット健全利用」への啓発意欲とPTA（日本PTA全国協議会・全国高等学校PTA連合会）等の多大な協力によって、昨年度に引き続き約3千人規模（全体の協力者数3,098名：保護者1,286名、高校生759名、中学生795名、小学生258名）のテスト実施から分析までのとりまとめにつなげる事が出来た。結果として、総務省が定義したリスク分類を具現化した7項目のリテラシー分類をもとに作成された昨年度の設問内容を、最新事象への刷新を行い、小学生から大人まで実施可能かつ短時間で回答できるテスト及び解説集の完成と、各対象のインターネット・リテラシーの分析が出来たことは大きな成果と言える。

さらに、当協議会参画企業ソフトバンク社が提供するサービスである「Yahoo!あんしんねっと」において、安心協ILASを援用したタブレット教材として地域の行政機関と連携して、小中学生の情報授業の前後での効果検証に活用する事例が始まる等、この活動が地道に広がりつつある。

4-1. 啓発活動への連携

本報告書「3. 調査結果総論（7ページ～15ページ）から考察した場合、以下の4つが考えられる。

- ・インターネット利用の初期段階（利用なし～利用半年間）では、リテラシーが低い傾向にあり、トラブルが起きやすいことが想定される。
- ・インターネットをまったく利用しないのではなく、ある程度の利用経験があり、また利用し過ぎず、適度に利用をコントロール出来ている青少年は、正答率が高いと言える。
- ・青少年、特に小学生においては、法律関係（著作権）の設問の正答率が低かったことから、専門的な用語や日常的に利用していない事象に関する理解が不足していると思われる。
- ・最新の事象をテスト化したことにより、学齢や利用経験に依らない結果がみられた。これは、最新の事象の経験値（年数）は、保護者と青少年の間、並びに高校生と中学生の間でも変わらないことが考えられる。

上記のことから、「家庭や学校等で話し合う機会を設けて、適切に利用時間をコントロールすることを推進すること」、「青少年の啓発研修会において、専門的な用語（法律等）を丁寧に説明すること」また「保護者や青少年の研修会において、最新の事象を出来る限りタイムリーに伝達していくこと」が必要であり、安心ネットづくり促進協議会の啓発活動と連携していくことを進めていく。

4-2. 来期に向けた課題

昨年度に引き続き、検討課題は「この活動における分析結果を各対象に対して、どのように啓発活動につなげていくのか」であり、来期の活動においても、啓発に資する調査内容を検討していく必要がある。

る。また昨年度の結果が想定よりも高得点に偏っていたため、本年度においては「○×選択式」の設問から「4択式」に変更するなどして難易度の調整を行ったが、結果的に平均点は昨年度と変わらない結果となった。このことを作業部会で検討した結果、この理由を以下の3点に集約した。

- ・ネットリテラシーを問う設問自体が、常識の範囲で答えられるものが多い
- ・実施対象（学校・保護者等）のリテラシーレベルにより偏ってしまう可能性がある
- ・正確性のため、無効基準を厳しく設定したことで、正答率の低い対象者を除外した可能性がある

上記を鑑み、今後より正確な調査を行う方向性よりも、本テストを啓発現場で利用する側が使いやすくすることで、実施対象者を増やしていき、啓発側面の効果を拡大していく方向性のほうが妥当であるとの結論に至った。来年度以降は、調査の要素を残しつつ、啓発側面の状況を踏まえて、利用しやすいテスト実施となるように検討を行って行くことにする。

5. 来期の活動方針

前項までの結果を踏まえて、現時点で以下の方向性で検討をしている。また体制については、これまでの2年間の活動により、その活動が定型化され、普及啓発活動と密接に連携すべき段階になりつつあると考えられることから、その活動をより効果的・機動的に実行する観点から、調査研究委員会から普及啓発広報委員会（普及啓発活動作業部会）傘下のSW（サブワーキング）として移管し活動する。

- 安心協ILASの活動方針（案） -

- ・設問の修正が必要なものは修正を加えるが、基本的には大幅な修正を行わない。
- ・問題単位等のより細かい分析を行うことで、啓発の指針となるような分析が出来るのではないかと
との意見があるため、より詳細な分析が出来るように予算の配分を検討する
- ・実施対象はバランスよく実施が出来るよう進める。小中高について各5校実施が目安。
- ・基本的な調査は、問題数21問で行うが、普及のためには問題数が様々なバージョンで展開することは可能とする。

		2014年									2015年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	テスト問題確認作成				■	■							
B	アンケート作成				■	■							
C	解説集の作成				■	■							
D	実施地の決定					■	■						
E	テストの実施						■	■	■	■			
F	データ分析（中間）										■		
G	データ分析（最終）											■	■
H	最終報告書作成												■